

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ほっとくりやがわ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101610		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	グループホーム ほっとくりやがわ		
所在地	〒020-0124 岩手県盛岡市厨川2丁目11-12		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成23年 2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370101610&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年11月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ほっとくりやがわ』は、一棟9名の「家」です。ゆとりのある時間と住居の中で、くつろぎながらその人らしい生活を送れる事を目的とし、「ほっと」安らぎのある、温かい生活が出来るようにお手伝い致します。入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、何よりもその人らしさを尊重します。岩手高齢協の理念である、「元気な高齢者をもっと元気に」「寝たきりにならない・しない」を合言葉に、出来るだけ自立支援を目的とし、その人らしさを支えております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然光が差し込む明るさと全館暖房が心地よく、ゆったりと落ち着いた雰囲気である。職員も気負うことなく、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、穏やかで、笑顔のある暮らしを目指しながら、日々のケアサービスに向けて積極的に取り組んでいる。開設から6年が過ぎ、重度化も見られるが、協力医、訪問看護師との連携の下、本人、家族の意思確認を重ねながら、可能な限りの看取り支援もされている。本部の役員、所長を中心にサービスの質の向上や環境の整備に努め、調理師の採用や災害対策として火災報知機、スプリンクラーの設置計画などに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名：グループホーム ほっとくりやがわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングやカンファレンス、朝・昼の申し送りなどで職員それぞれの意見を出し合い理念の共有を図りながら、利用者様が和めるよう取り組んでいる。	毎日記入する業務日誌の様式の上部に理念「なごめる」「ほっとできる」「その人らしく」のほか、その実践に向けた指針「挨拶を忘れず」「笑顔のある穏やかな表情」「言葉がけに気をつける」などが印刷され職員は必ず見て確認し実践する仕組みとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小さな畑を作り、トマト・ナス・オクラ・みょうがなどを地域の方々の目にふれるような場所に植えている。その事で会話の機会も増えている。	県営住宅など団地の多い地域の中で、ホームがつくっている畑での野菜づくりを通じた交流のほか、地区の清掃や公園の除草、文化祭参加など日常的な交流を深めている。また回覧板のほかホームの広報を職員と一緒に廻しながら、ホーム理解につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の場で参加者に対して病気の事や介護保険制度などの情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、利用者の状況・施設の現状・感染症・防災面での今後の課題などを話し合い、それに対して意見を頂きながら、利用者の安全・運営に生かしている。	運営推進会議では、包括支援センターや民生委員、地域代表(消防団長)等の出席の下で感染症対策などテーマを定め意見交換が行われているほか、委員から新型消火器の寄贈や、災害時における要支援者として認めてもらうなど安全面で運営に活かされている。	運営推進会議を通じて徐々に地域の協力・支援、ホーム理解などが広がりつつあり、今後もこの会議を通じて警察や学校等の周辺関係者の参加を頂き意見や提言等を活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は主に感染症・防災の面での情報交換ができた。今後も、市との連携を密にしている。	介護認定や感染症対策等についての情報を得たり、スプリンクラー設置の防災対策の相談など、必要な連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをもとに、利用者様の細かな気持ちに対し、身体拘束のないケアに努めている。	身体拘束をしないケアについて職員研修のほか推進会議にもマニュアルを示し施設関係者全体の関心を高めている。なお、夜間帯における利用者の不安解消等の見守りとしてチャイムを各居室に設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の実際はないが、入浴時や更衣の時など身体に変化がないか確認する事や、拒否の強い利用者様に対してもスタッフを変えるなどで無理のないケアが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名活用している。社会福祉協議会の職員と連携を取りながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方々の不安や疑問点に関して、十分な説明を行い、入退所の同意書を交わし理解・納得を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様の声や表情などから情報を得、必要なものは家族様の意見を含めケアプランに生かしている。推進会議時には家族様の意見を大切に、運営に反映させるよう努力している。	利用者の意見は、日常の関りの中で把握しているほか、家族の来訪時に声がけをしたり、メールや電話で把握し運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。昨年度より現場から2名の理事を選出し、運営に反映させるよう努力している。	毎月行われるミーティングには本部理事も参加して広く意見を聞くなど、日常的に意見を述べやすい環境になっている。また所長・副所長が一人ひとりの意見を聴く機会を設け運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年常勤数を増やし対応してきたが、今年度もその数を維持しケアにあたっている。その他、有給休暇や祝日の休みも取れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修には、内外を問わず研修を受けている。職場ではお互い相談しながら働いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、ブロック会・定例会において情報収集し、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は入居前に実体験していただいている。その後はスムーズにサービス開始していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や施設に来られた際は、お話を聞く時間を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャと連携を取り、情報提供をしながら対応している。随時、見学・相談を受け付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事手伝いをしてもらったり、話を聞いてあげたり、時には職員の話聞いてもらったり、励ましたり励まされたり、共に関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加していただいている。又、体調の変化を電話で伝え、可能であれば受診に同行していただいたり職員と家族の連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や、お孫さんなどが訪ねてきてくれたり、手紙をくれたりと良い関係が築けている。又、部屋には家具や写真など思い出の品を飾り、なじみの場所作りに努めている。	面会等は家族の方の来訪が多いが、友人等は高齢になり訪問の機会が少なくなってきた。馴染みの理美容や懐かしい街並みへのドライブ、親戚や孫さんたちの訪問は継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の朝・晩の挨拶が習慣になっており、介助が必要な利用者様に関しても声を掛け合う場面があり、支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族にも連絡を取っている。行事など協力して頂き積極的に関わって頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや日頃の会話で利用者様の思いなどをミーティングなどで話し合い、その人らしさを生かせるよう計画に結び付けている。	家族の来訪時や利用者の日々の生活の様子や言動から把握するように努めているほか、利用者が自分の思いを表しやすい環境づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中から、生活状況など聞いたり、昔食べておいしかったものなどは、食べていただけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の会話・表情など観察し、申し送り・チャートなどの記録から、スタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族の意見をベースに、かかりつけ医、訪問看護師との連携のもと、毎月ミーティングを開催し、サービス計画の作成や見直しを行っている。	本人、家族の思いや意向、訪問看護師、協力医の意見等をもとにケアプランを作成しているほか、3か月ごとに見直しを行い、また状況に変化が生じたときはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、チャートの記録、カンファレンスの情報を元にプラン作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ヘルパー受講生を受け入れている。又、今年は高校生のボランティアを長期で受け入れ利用者様と関わりを持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の行事を通して、民生委員や消防団などの方々に協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や訪問看護師との連携は密にとれている。週一回の看護師の訪問や月一回のDrの往診により健康チェックを行っている。緊急時もDrに協力してもらえるよう態勢を整えている。	希望するかかりつけ医となっており、受診同行はケアマネが担当し受診結果等は電話やメールで家族に知らせている。週1回の訪問看護師の来訪や、協力医の毎月の往診は利用者の健康管理や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな情報も逃さず利用者様に適切な受診・看護などが受けられるようDrと看護師と連携し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は不安にならない様、面会に行くようにしている。家族に方を通して情報を頂き相談しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最近では、H22.3.16に家族の意向のもと、ターミナルケアを行った。今後も本人・家族の希望を大切に、主治医・訪問看護師と共にミーティングを繰り返し、終末期に向けたケアに取り組んでいく。	「医療連携体制に関する指針」を整備しターミナルケアを具体的に取り組んでいる。看取りでは家族の意向を大切に、状態の変化に応じて主治医や訪問看護師と相談しながら段階的な話し合いを踏まえて家族が納得する支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は救命講習を、ほっともとみやと合同で行った。今後も定期的に行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を地域の方々にも参加してもらいながら行っている。今後は、夜間想定での訓練にも力を入れていきたい。	消防署の指導の下、年2回の火災訓練を行い、併せて通報訓練のほか、消火器の操作訓練、避難経路の確保状況点検などを行っている。訓練には推進委員のメンバーの参加を得ている。	夜間想定訓練は実施されているが、夜勤者一人の体制での必須要件は何か、どこまで可能かの限界等についての計画立案を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し、入浴時・排泄時などへの配慮に心がけ、言葉遣いや自室への出入りなどにも全職員細心の注意を払い対応している。	声かけや会話のトーンに配慮し、排泄誘導や介助、失禁対応など、プライバシーを守ると共に羞恥心に配慮した言葉かけや対応を行っている。居室の入り口は、暖簾で私生活を守ると共に出入れにも了解をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に同じ目線で声掛けをし、一人ひとりに合った対応を心掛け、本人の意思を尊重したケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の訴えを受容し、その人のペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の身だしなみはスタッフが気に掛けている。時にはお互いに服装について、褒め合ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から食べたいものを聞き、メニューに入れている。その人に合った調理の工夫や盛り付けも食欲をそそるよう配慮を行い、片付けなどは、利用者と職員が楽しみながら行っている。	利用者の力量に応じて、後片付けは一緒に行っている。利用者の体調に合わせて刻みやとろみを使った食事を作るといった工夫をしている。また、事業所で作った野菜や季節感のある食材を用いている。	9月より、調理師の採用が決定していることから、食事への関心や楽しみが倍増されることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事の量、水分量に気をつけ、バランスの良い食事を心掛けている。GH協会での調理研修を通し、栄養や塩分などに気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人に合った方法で口腔ケアが行えるよう声かけし、時には介助を行い清潔に努めている。(歯科検診の活用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、自立した排泄を促せるよう、個々に応じた時間にトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表のもとタイミングを見計らいトイレ誘導し自立に向けて支援している。なお、夜間はワイヤレスチャイムで様子を確認し適時適切に声がけし誘導し利用者が安心するよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸に優しい食べ物(ヨーグルト・寒天・麦)などを食事を含めている。又、適度な歩行運動をしていただくよう支援している。排便困難な場合は、Drの指示のもと下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けを行い、希望がある方は入浴して頂いている。個々に合った湯量・湯温に注意し、又、入浴剤などの利用で、温泉気分を味わっていただけるよう雰囲気作りを大切にしている。	入浴回数や時間などの希望には柔軟に対応し、毎日入浴の方もいる。介護度の高い方は、バイタルチェックのほか、湯量にも配慮しながら清潔保持、疼痛の緩和、気分転換などの支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて誘導し、入床時には職員と一緒に更衣など見守り・介助しながら安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごと薬のファイルを作成し、用法や用量について確認し、事故のないよう努めている。訪看師との連携により、状態変化時にはすぐ対応して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で行っている事(茶碗拭きや洗濯たたみなど)を通し、集団生活の中で役割を持っていただいている。気分転換に会話・ゲームなどを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が困難な利用者様には車いすで移動が出来る車を使用し、9月には八幡平、10月は紫波の方へ外出している。利用者の希望に合わせ10月にはお墓参りも行っている。	近所への散歩や買物は、歩行困難や車椅子の方も含め行っているが、以前のように実施できていないが、月一回程度は利用者の希望等を考慮しながら、高松の池公園や八幡平国立公園などへドライブしている。墓参なども希望に合わせて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などは立て替え金ではあるが、職員と一緒に土産などの買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自分から電話をする人はいないが、家族から連絡が入った場合は本人と会話をしていただくようにしている。手紙の場合は本人・家族の了解を得て、一緒に読むなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感と事故防止のため、障害物を排除し環境の整備に努めている。又、安心して過ごせるよう花や絵・その時々の方々の写真などを目線に飾り、雰囲気作りをしている。	全館電気暖房で、換気や湿度等の管理にも配慮され快適な空間である。窓越しからは、北上河原の桜の木やクリの木などの樹木が彩る四季折々の変化を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの使用や食席の工夫、畳スペースなど居心地良く過ごせるよう心がけ支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、自宅で使い慣れた家具や当時の写真など、落ち着いて過ごして頂く事が出来るよう心掛けている。	馴染みの物が持ち込まれるよう家族に働きかけている。家族写真等のほか、本人の使い慣れた藤椅子にもたれて読書などを楽しむなど、居心地の良い空間となっている。居室にはワイヤレスチャイムが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手摺を設置している。利用者様に合わせてトイレにもアームレストを設置している。(中央トイレ)		